

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	mirappi 矢三		
○保護者評価実施期間	8 年 1 月 15 日		8 年 2 月 16 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	8 年 1 月 15 日		8 年 2 月 16 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8 年 3 月 23 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく支援の充実 アセスメントを行い個別支援計画を作成している ・アセスメントシートを使用 ・5領域を意識した支援 ・支援内容を日々記録して振り返りを行っている	職員ミーティングで支援内容の共有 利用時の日々の内容を共有・記録 保護者様との情報共有 職員研修で児童のsos	面談実施の際、保育園の状況を把握できるように 関係機関との連携を図る 支援計画以外での面談の機会を提供を周知していく必要がある
2	保護者様との連携 送迎時に保護者の方に情報共有 児童発達児童に対してはLINEにて支援内容をお伝えしている 相談に柔軟に対応	家庭の様子や困りごとを積極的に聞き取る 写真付き活動報告 保護者様の不安軽減	保護者様との連携をさらに充実させるため、LINEでの支援内容の発信においては活動のねらいや家庭での関わり方も併せて伝えることで、家庭との連携を強化する。さらに、定期的な振り返りの機会を設けるとともに、具体的な聞き取りや相談しやすい環境づくりを行い、保護者様のニーズに応じた柔軟な対応の質向上を図る
3	専門職によるアセスメント 理学療法士・保育士が在中しており一人ひとりのアセスメント（計画）を行い専門的な視点で行い情報共有している	職員の資質向上のため研修を行い事業所内で共有している 専門的実施計画書を作成 一人ひとりのアセスメントを各専門職の視点で行うことができている	・理学療法士・保育士それぞれの視点を整理 ・アセスメント→支援への落とし込み 評価だけで終わらず具体的な支援に直結 個別支援計画書とリンクしている ・理学療法士等の専門職が個々の発達や運動面を専門的に評価し日々の支援の中で運動面へのアプローチを行っている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や関係機関との連携が不十分	関係機関との情報交換の場が少ない 通常級との連携が不十分で情報が少ない 地域との資源やサービスについての知識が浅い	関係機関との連携を強化 活動や行事に地域の専門職を招く等つながりを作る 学校・福祉・保護者様との定期的な連携
2	職員の支援内容のばらつきがある 支援方法が画一化できていない	支援方法の共有機会が十分でない マニュアルや具体的な手順が職員間で共有されていない 支援の判断や介入タイミングにばらつきが出やすい ほかの職員が同じ状況にどう対応したかが見えにくい	職員が参加しやすい研修時間の確保 支援マニュアルの整備 利用児ごとに具体的な対応例や声かけ方法を文章化 誰が対応しても一定の支援ができるように 個別支援計画や記録の活用で共通理解を持つ 新人研修や定期研修で支援方法の基本を統一
3	個別スペースの確保 室内をパーテーションで区切るが体を動かすスペースが狭い	パーテーションを設置することでさらにスペースが減少 活動内容や利用児の動きに合わせたレイアウトが十分検討されていない	不要な家具や物を一時移動 同時に活動する人数を減らす 同線を明確にしてぶつかり防止